

平成 30 年度第二南陽園事業報告

第二南陽園の事業運営については、「利用者中心のサービスの提供」とする浴風会の基本理念に基づき、浴風会介護老人福祉施設の 3 施設のサービス指針を踏まえ運営にあたった。利用者一人ひとりが安心かつ満足して暮らして頂くことの出来る施設運営を目指すとともに、職員の能力が生かされ、働きやすい職場環境づくりを推進した。

1 利用者の状況

利用率は 95.6%で、年度予算目標を下回る結果となった。一方、特養の重度化を反映して入院による空床は、1日平均 12.7 名であった。併せて年間退所者は 33 名、内死亡による退所者は 23 名であった。

(1) 利用者の概況

区 分	29 年度	30 年度
定 員	150 名	150 名
ショートステイ定員	6 名 (15 名)	6 名 (15 名)
年間延利用人員	54,573 名	54,225 名
1日平均利用人員	149.5 名	148.6 名
利 用 率	96.2%	95.6%
平 均 年 齢	88 歳 9 ヶ月	88 歳 4 ヶ月
最 高 齢 者	104 歳	104 歳
平均在籍年数	4 年 6 ヶ月	4 年 5 ヶ月
最長在籍年数	25 年 10 ヶ月	26 年 10 ヶ月
年間入所者数	32 名	36 名
年間退所者数	33 名	33 名

- ※ 1 ショートステイ定員の () 内は、空床利用の定員を示す。
2 「年間利用人員」「月平均利用人員」「利用率」は、ショートステイを含む。

(2) 日常生活動作等の状況 (年間平均)

区 分	29年度		30年度		対前年度 伸び率
	人 数 (名)	割 合 (%)	人 数 (名)	割 合 (%)	
食事介助者	103.9	69.3	105.2	70.1	1.01
排泄介助者	128.9	85.9	132.8	88.5	1.03
着脱衣介助者	129.9	86.6	130.9	87.3	1.00
寝返り介助者	73.8	49.2	78.5	52.3	1.06
移動介助者	116.6	77.7	121.0	80.7	1.03
整容介助者	127.1	84.7	127.6	85.1	1.00
入浴介助者(特殊浴)	67.3	44.9	66.4	44.3	0.98
入浴介助者(一般浴)	63.7	42.5	66.3	44.2	1.04

(3) 要介護度の状況 (年間平均)

区 分	29年度		30年度		対前年度 伸び率
	人数 (名)	構成比 (%)	人数 (名)	構成比 (%)	
要 介 護 5	60.9	45.5	70.0	47.6	1.04
要 介 護 4	48.8	36.4	53.8	36.6	1.00
要 介 護 3	17.9	13.4	16.7	11.4	0.85
要 介 護 2	4.9	3.7	5.4	3.7	1.00
要 介 護 1	1.3	1.0	0.9	0.6	0.60
平均要介護度	4.24		4.27		1.00

2 施設運営基本方針の実施状況(概要外特記事項)

(1) 地域との協働と社会貢献

① ボランティアの養成と協働体制の充実について

各ボランティアの受入調整については地域連携担当を窓口として対応した。
30年度のボランティアの活動状況は、動物ふれあい活動延 92名を含むクラブ活動延 701名、清拭たたみ延 506名、富士見丘中学ボランティアクラブ延 120名、他慰問等延 394名他、計 2,347名の方々にご協力いただいた。

② 地域貢献について

施設利用要綱により、活動室、集会室、車椅子（介護保険制度に拠らない）の貸出サービスを地域住民に対して行っており、30年度は延 12件の利用（貸

し室 11 件、車椅子 1 件) があった。

昨年度同様、近隣の富士見丘小学校・高井戸中学校へ、特養三施設・ケア 24 高井戸と共同して、生徒の福祉授業の講師として職員を派遣した他、現場の社会福祉士を、福祉系大学の特別授業に講師として派遣した。

(2) 利用者中心のサービスの提供

① 生活の質の向上について

重度化が進むなかで浴風会病院及び他医療機関と連携し、医療ニーズに応えた。30 年度において、浴風会病院へ入院搬送したケースは延 102 名、これとは別に外部病院へ搬送した利用者は延 13 名となっている。

② 感染症予防管理体制の充実

11 月には、季節性インフルエンザの予防接種をご家族の同意を得たご利用者に実施した。職員についても 89 名が予防接種を行った。インフルエンザ、ノロウイルス共に、ご利用者の発症は 0 名であった。

(3) 専門職の連携を生かせる職場づくり

① 研修体制の充実について

30 年度は、法人本部で行う新人、各階層研修に延 18 名の職員が参加し、第二南陽園内部で開催した感染症対策、ポジショニング、腰痛予防等の研修に延 215 名の職員が、また、3 特養で開催した研修には延 183 名の職員が参加した。3 特養で開催した研修においては、看取りケア研修に外部講師を招き実施し、延 60 名が参加した。外部研修については、計 72 回・延 92 名の職員が研修会に参加し、それぞれの職種において、ブラッシュアップと研鑽に努めた。

浴風会実践研究発表会では、機能訓練指導員が 2 階ケアワーカーと協働で「臀部圧測定からの車椅子座位の取り組み」をテーマに実践報告を行い、優秀賞を受賞した。

② キャリア段位制度について

キャリア段位制度による職業能力評価を実施し、2 名のレベル認定を取得した。アセッサー（レベル認定評価者）についても 30 年度は新たに 2 名養成し、31 年度は更なるレベル認定取得を目指している。

(4) 安定的経営基盤の確保

① 人材確保について

法人本部とも連携して介護人材確保に当たり、一般求人広告のほか、ハローワーク、福祉人材センター、ウェブでの求人等を活用しながら幅広く人材確保に努めた。また、初任者研修開催校と連携し現場見学実習を定期的に受け、資格取得後に継続して勤務をしていただく仕組みづくりにも取り組み、派遣職員から契約職員に切り替えるとともに3名の契約職員を正規職員に登用した。30年度も引き続き福祉人材の需要は高く、有資格者、経験者の確保がとりわけ難しく、一部は派遣・紹介職員も採用し対応した。

② 施設・設備の維持について

30年度は、個室の改修工事を行った。また、受水槽の更新についても法人本部施設管理課と協議を進め31年度の更新を目指している。

3 利用者へのサービスについて

利用者への介護サービスの提供に当たっては、ご利用者・ご家族の意向を伺い、施設サービス計画書を策定し、同意を得た上で実施した。

食事は、管理栄養士を中心に、栄養マネジメントを適切に実施した。毎月の食事懇談会や食事委員会を開催し、ご利用者の意見を聞き取り、献立、調理に反映させ、喜ばれる食事の提供に努めた。検討の際は、各部署から出された意見、要望、苦情などを、具体的な内容と統計で把握し、問題検討を積み重ねてきた。誕生会、納涼祭などにおいて季節の食材を楽しんでいただける行事食の提供を始め、30年度はフルーツバイキングの他、和菓子バイキングや月1回のおやつ選択食を行うことで「食べる楽しみ」の一層の充実を図った。

嚥下機能の低下や体重減少が見られるご利用者に対しては、訪問歯科、多職種と連携し、安全にきちんと食事摂取ができるよう検討し対応した。ご家族の協力も得ながら、7名の方に嚥下内視鏡を使った摂食状況診断も行い、口腔機能の維持、食形態の適正化を図ってきた。

入浴や排泄、着脱、移乗、体位変換という基本的日常介助については、個々のサービス計画に基づいて適切に実施した。

また、外出支援として、日常の園内の散歩とは別に、バスハイクを5月17日「上野動物園」、10月11日「東京タワー」の2回実施した。ご家族の協力も得ながら

ご利用者延 18 名、ご家族 3 名が参加した。また、各フロアとも個別に、近隣レストランでの食事会や散策、デパートやスーパーマーケットなどでの買い物等、外出の機会を増やすべく企画し、実施した。

健康管理については、浴風会病院と連携を図り、医療業務委託契約により内科医、精神科医の定期的な診療及び健康管理を受けた。看護・介護の連携を図りながら、疾病の早期発見、早期治療に努めた。また、介護職員等による痰の吸引等の実施要綱に基づき、指導看護師により適宜介護職員の指導研修を行った。医師、看護職員、介護職員を始めとする多職種連携のもと、安全な実施に心がけた。

機能訓練については、ご利用者によりきめ細かく機能訓練計画を策定し、必要に応じ医師の指示も仰ぎながら、必要と思われる訓練を行った。クラブ活動、レクリエーション、行事、日常生活動作等を通じ身体機能の維持を図り、ご利用者の生活意欲を引き出すべく取り組みを行った。多職種との連携のもとに、適切なシーティング・ポジショニングを通じた生活環境の向上を目指して取り組んだ。

また、ご利用者・ご家族には、施設運営上の取り組み等の情報を全体家族会及び利用者懇談会等において適時提供するとともに、月例にて情報提供文書を郵送し、また、カラー写真を載せるなどした季刊「フロアだより」を郵送する等、ご利用者の近況報告と併せて、ご理解をいただくよう努めた。更に、ご利用者の体調変化など日頃より連絡を密にし、相互信頼関係を築くよう努めた。

サービス提供の基本となる接遇マナーに関しては、年 2 回の虐待の芽チェックリストでの自己評価を継続するとともに、サービスマナー委員会を立ち上げ、外部研修に参加し接遇マナーの見直しを図った。

更には、潤いのある充実した生活を送っていただくよう動物ふれあい活動、各種ボランティア活動、各種クラブ活動等について、より一層の拡充と定着を図ってきた。

4 施設の運営・管理について

(1) 苦情対応について

苦情対応については、園長以下、苦情受付担当者他関係職員が誠意をもってその内容を受け止め、苦情発生時、その後の取り組み経緯並びに結果報告については極力迅速に対応する一方、掲示板での情報公開を行った。

日常からご利用者ご家族とのコミュニケーションを大切にして、ご要望などが話しやすい関係作りに努めた。家族会での苦情窓口の説明や文書配布による制度説明、法人内外の相談窓口の周知にも努めた。

なお、苦情の内容は(別表 2)のとおりである。

(2) 家族会の開催及び家族との連携について

30 年度の家族会実施状況は以下の通りであり、全体会では、30 年度の事業現況、第三者評価の概要、31 年度より実施される働き方改革に伴う取り組み内容を主な内容として説明を行った。また、各階家族会もフロアグループ毎の家族懇親会を行い、ご家族とは、より距離感の近い交流会となり好評であった。

全体会 平成 31 年 3 月 31 日 (日) 22 家族 27 名参加

納涼祭 8 月 27 日 (月)

各階家族会 1 階 10 月 21 日 (日)

2 階 9 月 17 日 (月)

3 階 11 月 4 日 (日)

ご家族との連携においては、日頃から生活相談員を始め、介護・看護職員により、電話連絡や、面会時での伝達、郵送等による方法において、必要な連絡連携に努めた。

(3) 業務の見直しと改善について

30 年度は、各フロアの製氷機の更新を行った他、体圧測定器を導入し、ご利用者の体圧分布を視覚化・数値化することにより褥瘡の防止、安楽な姿勢の把握に努めた。

(4) 職員の健康管理及び労働災害の防止について

職員の健康管理については、定期健康診断は延 142 名が受診し、胃部レントゲン検査は 17 名が検診を受けた。

年 2 回延 87 名の職員に対して腰痛検診を行うとともに、医師からのアドバイスをそれぞれの職員に伝えた。また、腰痛予防のため、機能訓練指導員が講師となり腰痛予防研修を開催し、腰痛予防ベルトを職員に貸与した。

インフルエンザワクチン接種については、施設の負担で希望する職員を対象として予防接種を行った。

また、ストレスチェックに関しては、54 名の職員を対象に実施し、その分析

結果に関して検討を行った。

なお、労働災害の対象職員に対しては、速やかに手続きを行った。(30年度該当者は2名)

(5) 災害の予防と訓練について

防災対策として、毎月の自衛消防訓練、救命講習会への参加、消防設備機器の整備点検等を通し、防災技術・意識の向上及び安全対策に努めた。

また、昨年度に引き続き、災害時の備蓄物品の更新を図ると共に、普通救命講習にも参加し、2名の職員が認定を受けた。

5 第二南陽園事業計画(重点取り組み事項)について

【事務室】

来訪者に対して、笑顔での対応を心掛け、お電話での問い合わせに対しても、明るいき調での対応を心がけた。また、他の施設に関する問い合わせについても地図を渡してご案内した他、当該施設の担当者に連絡を取る等来訪者が求めている情報に的確に繋げるよう努めた。

【栄養室】

経口維持会議、褥瘡防止対策委員会、昼食時のラウンド時などに、気になる方の支援の確認をしてきた。それにより、改善された方、現状で安全に食事ができる方法を検討した方など、様々な状況を他職種の意見も聞きながら対応した。高齢者の栄養管理は、低栄養を改善するだけでなく、最低必要量の食事摂取ができるかを考える方が増えてきている。今後も、個々に合った食事支援を継続していきたい。

栄養室だよりは、5・10・11・2月の年4回の発行を行った。また、例年通りのランチョマットの提供も行った。

【医務室】

フロアラウンド時には他職種と情報交換を図り健康管理を行い、状態変化があった際は、早期に病院受診に繋げていくことができた。

ケアワーカー対象に感染症研修を実施し感染予防に努め、8名の職員がインフルエンザに罹患したが、ご利用者の発症は見られなかった。引き続き標準予防策の徹底に努めていく。

【機能訓練室】

フロア担当制にしたことで、フロアとの連携が細やかに図れるようになってきたが、受け持ちフロア以外での動向・情報に伴うご利用者の把握が乏しくなっているため、お互いに情報交換を行って不足を補っている。

福祉用具の管理においては、ナンバリングにて以前に比べ物品把握がわかりやすくなった。今後は物品管理表の更新を徹底することで更に改善していきたい。

【生活相談員】

年間ベッド利用率は、95.6%と目標を下回り、低い数字となった。理由として年間入院者数は115名と昨年より増加、加えて入院者の長期化が原因となったことが挙げられる。近年、特養が近隣に増え、ショートステイ顧客確保が難しい中、新規契約者数は79名と昨年と変化ないが、緊急案件による措置入所や緊急ショートステイについては14件、行政や近隣の事業所との連携により迅速な対応をフロアや関係職種ともに行うことができている。

また、安定した経営基盤確保のため、1日あたりの空床人数を目標2.5人と設定するも、3.0人となり目標を下回った。

地域貢献活動においては、恒例行事である近隣小学校の写生会の他、書初めの展示を各施設協力の下、実施することができ、ご家族、学校関係者、法人内からも好評をいただき、ご利用者の外出支援にも繋げることができた。

【1階フロア】

ご利用者個々の認知症周辺症状に職員全体で対応すべく「個別ケース会議記録」を作成した他、認知症介護基礎研修等の研修に積極的に職員が参加する機会を設けることができた。

また、グループ毎にグループ目標を定め、グループミーティングや現場でのOJTでの指導・取り組みにより目標とその進捗が各職員にも浸透しサービスの向上に資することができた。

【2階フロア】

サービスマナーに対する意識付けは浸透しつつある。「職員間で不適切なケアを指摘し合える雰囲気」については、サービスマナーの振り返り時に話し合う場はできており、今後十分に機能するよう取り組んでいきたい。

レクリエーションの充実については、ご利用者の虚弱化により時間の捻出が難しかったが行事やボランティア活動の無い日は、職員によるレクリエーションを確実に実施することができた。

【3階フロア】

近隣への買い物や喫茶店など、昨年より多く外出支援を行うことができた。また、外出支援ができない時には、園庭散歩に出かける機会を増やせた。

環境整備は、リビングは行事等でレイアウトを工夫した。居室は、収納スペースの問題やご利用者の意向で整理できなかった部分もあるが、ご利用者の意向や思いを汲み取り、環境整備を行った。

【リーダー会議】

フロアでの取り組みや課題を多職種で共有し、多職種との連携・業務改善に努めた。また、各委員会での取り組みの周知や実施がスムーズに行えるようアドバイザーとして、サポートするように努めた。

【サブリーダー会議】

ヒヤリハットの集計を3ヶ月毎から1ヶ月毎に変更し、振り返りを実施した。また、昨年度から使用していたKYTシートを写真など用いて、独自シートを作成し検証していくことで、気づきの力を高められるよう努めた。

研修報告会は、講義だけでなく、実技を多く取り入れることで職員のスキルアップに努めた。参加した職員からは、「わかりやすい」と好評であったが、参加できなかった職員への周知が不十分であったとの課題が残った。

【事故防止対策委員会】

サブリーダーが中心となり、ヒヤリハットの集計・分析を行い、フロア会議等で検討をした。また、リスクマネジメント委員会でその結果を報告し、多職種でも検証を行うことができた。

事故報告は、臨時事故対策委員会を開催し多職種で検証・防止策を話し合い、リーダーを中心として1ヶ月・3ヶ月後に防止策の実施状況・検証を行った。

【サービスマナー委員会】

年2回の「虐待の芽チェックリスト」と並行して、食事のサービスマナーチェック表を作成し、月に一度自己評価を実施したが、フロアにより提出率のバラつきが見られた。しかし、場面を固定しての自己評価を行うことで、新た

な気づきにもつながってきている。また、委員を中心としたサービスマナー研修を3月に実施予定であったが、他研修と重なってしまったため、4月に行うこととした。

【感染防止対策委員会】

10月より、主任看護師が講師となり計7回の感染症予防研修会を開催し、延63名が参加した。また、標準予防策（手洗い）を徹底し、8名の職員がインフルエンザ・ノロウイルスに感染をしたが、ご利用者の発症は見られなかった。引き続き標準予防策の徹底に努めていく。

【褥瘡防止対策委員会】

褥瘡予防アセスメントがスムーズに行えるようマニュアルを作成した。また、皮膚トラブルが再発しやすい方の対応を定期的に多職種で検討を行うことで、年度当初6名だった褥瘡者を3月末には0名にすることができた。

ご利用者個々の排泄パターンを把握し、個々に合った排泄用具を使用することで、経費削減にも努めることができた。

【ケアプラン委員会】

施設サービス計画を作成する際、内容について迷いがある方を対象に、事例検討を行った。結果、様々な視点を知ることができ、計画に結びつけることができた。また、他フロアで実施している余暇活動にも参加できるようレクリエーション表を作成し、園芸クラブ・お料理クラブなどの参加ができ、施設サービス計画にも盛り込むことができた。

専任介護支援専門員を中心に、新アセスメントシートが完成した。ニーズが表明しにくい部分がわかりやすくなった。

【身体拘束廃止委員会】

年度当初は1名の方が身体拘束を行っていたが、多職種と連携を図り身体拘束を解除することができた。30年度新規で4名の方の身体拘束が必要となったが、すべて経鼻経管になられたことで、マーゲンチューブ自己抜去をされる可能性が高い方である。7～9月は、身体拘束者0名にすることができたが、経鼻経管の方の対応が課題として残った。

【口腔ケア委員会】

経口維持会議では、対象者以外の方で多職種が対応を検討する必要がある方

をそれぞれで挙げ、その都度、支援方法の検討等対応することができた。

口腔ケア技術と職員のスキル向上のため、歯科医・歯科衛生士による研修会を実施したほか、フロアでも直接指導をしていただくことができた。

【食事委員会】

ご利用者の状態に合わせ食事席の見直しや、落ち着いて食事が召し上がれるよう音楽や季節の飾りを行うなど環境整備を行った。また、安全に食事が摂取できるようとりみ剤やお茶類の検討を行い、変更することができた。

月2回のおやつ選択食もご利用者にとっても好評であった。

【機能訓練委員会】

体圧測定器を購入したことで、適切なポジショニングの実施に努めることができた。しかし、皮膚トラブルを再発される方も見られているため、今後も褥瘡防止対策委員会と連携を図り再発防止に努めていく。

車いす・マットレスの管理は、ナンバリングを行うことで種類・数の把握はできた。今後は、物品管理表の更新を徹底することでご利用者に合った車いす・マットレス等の提供に努めていく。

【アクティビティ委員会】

フルーツバイキングを季節のフルーツが多い6月に実施するなど、行事内容の見直しを一部行った。年間行事の他に、他フロアのクラブ活動に参加していただけるよう情報共有を行い、ボランティアの協力もあり楽しんでいただける機会を増やすことができた。

ご利用者の希望に沿った外出支援を延69名行うことができた。

【実習者担当委員会】

30年度は、ご利用者からの希望もあり、麻雀・囲碁等のボランティア活動が新たに参加していただけた。ボランティア来園時には、係りをしっかりと設け、活動しやすいようサポートするなど、職員への周知も行うことができた。

実習生に対しては、実習目標が達成できるよう地域連携担当とフロア実習担当で連携を取り支援することができた。

【リスクマネジメント委員会】

30年度は、災害発生時の各職員の事前行動確認に役立てるため、地震発生時、火災発生時の2種類のアクションカードを作成し、各部署に設置した。危険予

知活動(KYT)については、写真を使った独自シートを使って取り組んだ。引き続きリスクマネジメント委員会の職員向け通信としての「Spotlight」の定期発行を行った。

6 諸会議の実施状況について

サービス経営会議	49回	リーダー会議	12回
サブリーダー会議	12回	食事委員会	11回
行事検討会議	12回	機能訓練委員会	11回
事故防止対策委員会	23回	防災委員会	12回
安全衛生委員会	12回	身体拘束廃止委員会	12回
感染対策委員会	4回	業務改善委員会	7回
サービスマナー委員会	11回	褥瘡防止対策委員会	12回
実習担当者委員会	6回	口腔ケア委員会	12回
ケアプラン委員会	11回	喀痰吸引等安全委員会	4回
アクティビティ委員会	12回	リスクマネジメント委員会	12回

7 主要行事等の実施状況について

平成30年度に実施したクラブ活動及び主要行事等は次のとおりである。

(1) クラブ活動実施状況

動物ふれあい活動（偶数月第一木曜日）	5回	（延 166名）
フラワーアレンジメント（第三土曜日）	12回	（延 150名）
みさっこ・ひろっこ（第三木曜日）	10回	（延 327名）
はがき絵（第三月曜日）	12回	（延 67名）
音楽クラブ（第一・三月曜日）	19回	（延 699名）
高混クラブ（第一土曜日）	24回	（延 761名）
フルート演奏（第二水曜日）	22回	（延 787名）
アートセラピー（第二火曜日）	12回	（延 103名）
ギター演奏会（第二木曜日他）	25回	（延 905名）
折り紙クラブ	5回	（延 26名）
コーヒー喫茶	18回	（延 110名）

書道クラブ	12回	(延 76名)
将棋・囲碁・麻雀	64回	(延 78名)
アマリリスの会	12回	(延 348名)
園芸クラブ	42回	(延 128名)
ギター&マンドリン	6回	(延 195名)
アロマハンドマッサージ	11回	(延 110名)
げんき会	6回	(延 205名)
アニマルセラピー	2回	(延 67名)
	計	延 5308名

(2) 主要行事実施状況

(別表3) のとおり実施した。

8 寄付金等の状況について

平成30年度については、2家族より合計150,000円の寄付金をいただいた。また、様々なご寄贈があり、それぞれの方々の意向に即し、施設運営の為に有効活用させて頂いた。